

吉増剛造、詩人、1939年、東京府下（現杉並区）阿佐ヶ谷に生まれ、福生市に育つ。慶應義塾大学在学中から詩作を試みていた。現代日本を代表する先鋭的な詩人の一人として高い評価を受けている。『黄金詩篇』『王國』などの初期作品では、エタスクラメーション・マークを連打した疾走感あふれる詩を多数発表した。中期以降は読点とリーダーを多用しての、ポリフォニー的構造を持った独特の文体へと移行している。詩の朗読パフォーマンスの先駆者としても知られ、海外でも積極的に朗読ライブを開催している。自身の詩と組み合わせたパノラマカメラや多重露光を多用する写真表現、彫刻家若林奮との共同制作による銅板を用いたオブジェ作品、映像作品の制作など、領域横断的な創作活動を展開している。吉本隆明は「日本でプロフェッショナルだと言える詩人が三人いる。それは田村隆一、谷川俊太郎、吉増剛造だ」と評している。野村喜和夫や岸田将幸をはじめとした後続の現代詩人たちに強い影響を与えているほか、古川日出男、堀込高樹（キリンジ）、朝吹真理子らにも影響が及んでいる。

よします ごうぞう

吉増剛造 トークイベント

オタル、
髭篋、
瀧口さんのこと

オタル、
ひげべら
髭篋、
イクバスイ
瀧口さんのこと

2018年**10月3日**（水）午後6時〜7時30分 入場料 500円

市立小樽文学館展示室 定員80名 主催 小樽文學舎

小樽市色内1-9-5 協力 響文社

※9月10日（火）午前9時より文学館にて電話で受け付けます。Tel. 0134-32-2388